

竹取新聞

発行所
株式会社 カグヤ



第207版

理念と実践で
絆を結びます

竹取新聞は、「子ども第一義」の理念のもと、皆様の保育に少しでもお役に立てたらとの思いでお届けしている新聞です。お客様との素敵な保育実践はもちろん、マネジメントや働き方、子育てや暮らしのあり方、社内の取り組みやウェブ・IT支援まで、カグヤの実践を発信しています。明日から真似できることや、挑戦する勇気につながることを大切に発刊しています。

竹取新聞に関する皆様のご意見や
ご要望をお聞かせください！

ご意見箱



竹取新聞以外のご意見も
お待ちしております。
お電話やメールでもOK！

03-3518-6217
info@caguya.co.jp

DI研究の結果（3～4歳で開始し23歳まで追跡）				
子ども68名を無作為に3つの教育に割り当て、23歳まで追跡調査				
	DI (ディレクト・インストラクション) n=24	ナーサリースクール (自由遊び中心の保育) n=22	ハイスコープ (計画→実行→振り返り) n=22	3群の比較 (23歳時点)
学力 (幼児期3～4歳時点) 標準化得点（平均100）	122 (最も高い)	98 (平均)	103 (やや高い)	DIが有意に高い ($p < .05$)
学力 (23歳時点) 標準化得点（平均100）	104 (平均と差なし)	108 (平均と差なし)	110 (平均と差なし)	3群に有意差なし (差はほぼ消失)
重罪での逮捕 (23歳時点) 割合 (%)	36%	16%	13%	DIが有意に高い ($p < .05$)
情緒面の問題 (23歳時点) 割合 (%)	30%	10%	9%	DIが有意に高い ($p < .05$)
社会への参加 (23歳時点) ボランティア参加経験 (%)	42%	66%	67%	ナーサリー・ハイスコープ が有意に高い ($p < .05$)
ポイント ・ DIは幼児期の学力は高かったが、長期的な学力順位は消えた。 ・ 社会性や情緒面では、ナーサリースクールとハイスコープが良好。 見方 - 青 (DI)：最も良い／高い - 緑 (ナーサリー)：中間 - オレンジ (ハイスコープ)：良い ※ 数値は代表的な研究例の例 (出典: Schweinhart et al., 1993 など) ※ 小規模研究のため、解釈には注意が必要				

カグヤの一円対話も、安心して対話できる環境や、弱さを出し合い、助け合い、学び合う環境を目指して取り組んでいます。

世界の研究から考える 「見守る保育」

～先生が教えるほど
子どもは幸せになるのか～

教育」には、知識や技能を効率よく身につけられるという強みがあったのです。

ところが研究はそこで終わりませんでした。子どもたちを15歳、そして23歳まで追跡すると、幼児期に見られた学力面での差は、その後大きな差として残り続けたわけではありませんでした。

一方で、長期的に見ると別の違いが現れてきます。上の図を見ると、幼児期の学力ではDIが高い一方、23歳まで追跡すると、社会面や情緒面では別の傾向が見えてきます。子どもが自分で選ぶこと。友達と意見を交わすこと。ときにはぶつかり、協力しながら解決すること。失敗し、やり直し、もう一度挑戦すること。こうした経験は、幼児期だからこそ育まれる力なのかもしれません。

大人が答えを示し続けられれば、子どもは「正解を待つこと」が上手になります。しかし、自ら問いを立て、仲間と新しい答えを生み出す力は育ちにくくなる可能性があります。

この研究は、「幼児期に本当に育てたい力とは何なのか」を私たちに問いかけてい

るように思います。文字や数は、あとからでも学ぶことができます。しかし、自分で考えること、自分で選ぶこと、人と関わること、失敗から学ぶことは、その時期だからこそ積み重ねられる経験でもあります。

そしてこの問いは保育だけへのものではないと感じています。子どもたちは、やがて社会へ出て働きます。そこで「言われたことだけをする人」が求められるのであれば、幼児期に大人の指示通りに動く力を育てることに意味があるでしょう。

しかしこれからは、一人ひとりが考え、挑戦し、互いに学び合いながら新しいものを生み出していく力がますます大切になります。だからこそ、未来の子どもたちを迎える私たち大人側も、管理する場から、一人ひとりが考え、挑戦し、互いに学び合える環境へと変わっていく必要があるのだと思います。

幼児期に育てたい力は、社会に出てから突然必要になる力ではありません。その芽は子ども時代から育っているのだと思います。（眞田海）

ホームページ月次レポートの 活用案内

カグヤウェブセンターでは、園のホームページがどのくらい見られているか、どのページへのアクセスが多いかを可視化し、今後の情報発信において役に立ていただける「ホームページ月次レポート」を毎月無料で配信しております。

本レポートでは、訪問者数やよく見られているページのご確認をはじめ、アクセスが多い曜日・時間帯に合わせたブログ更新、スマホ対応やSSL化といったことや、園児募集や職員採用の成果に繋げるための改善のヒントなど、日々の各種運用に直接役立てることができる情報を詳しく掲載しています。

「アクセス状況を数値化されたデータで把握し、より多くの人に園の魅力を伝えたい」「日々のブログ更新を、園児募集や求人の成果に結びつけたい」「これまでの情報発信のあり方を見直すきっかけにしたい」場合に大変おすすめの内容です。なお、年数が経過している

ホームページの場合、アクセス解析が未設定のままになっていることも少なくありません。現在、まだレポートが届いていない園がございましたら、いつでも無料にて新規の配信設定を承ります。「うちの園も配信してほしい」「自社のアクセス状況に興味がある」という場合は、ぜひお気軽にお問い合わせください。

本レポートが、保護者様への園の様子の共有や、求職者へのPR、園の活発な情報発信の一助となれば幸いです。数字を見るだけで終わらせず、日々のブログ更新のタイミング検討など、園の発信力を最大化する具体的な運用ツールとしてぜひ本レポートをご活用ください。（松田恵美子）



最近、藤森平司先生がよくお話しされている以下の研究について、私なりに調べてみました。「子どものためならしっかり教えた方がいい」。

そう考えることはとても自然なことです。分らないことは大人が教える。早く覚えれば、その子の将来に役立つ。私たち大人もそうやって育ててきました。実は約60年前のアメリカでも同じような問いがありました。貧困や教育格差が大きな社会問題となる中、「幼いうちから文字や数を教えれば、子どもたちの未来を変えられるのでは

ないか」と考えられたのです。そこで研究者たちは、3つのグループを比較しました。1つは、先生が計画的に文字や数などを教える直接教授型（図のD）。もう1つは、子ども自身の選択や主体性を大切にするハイスコープ型。そして、子どもの自由な遊びを中心とするナーサリー型です。3～4歳の子ども68人を、その後23歳まで追跡しました。

幼児期だけを見ると、Dの子どもたちは文字や数などの学力面で高い成果を示しました。つまり、「先生が教える

今月の カグヤ社内「一元対話」テーマ

- **席替えテーマ：「食いたい鍋のスープの味 濃いーあっさり順」**
（新しい個性や一面が知れるようなテーマ設定がポイント！）
- **自由テーマ：「最近有難かったなと思うこと」**
（オープンで本心本音が出しやすいようなテーマ設定がポイント！）



一元対話は、園が主体となって「聴く文化」や風通しのよい組織風土を育てていく実践です。カグヤは、その取り組みが園に根づくよう伴走しています。ここでは毎月、カグヤで実践された一元対話のテーマをご紹介します。導入いただいている園の聴福人さんがテーマを設定する際の参考にできれば幸いです。



一元対話の情報は
こちらから



一元対話にご興味のある方はお問い合わせください！

秋土用をゆったりと

10月に入り、朝晩の気温差が大きくなったり、日によって寒暖差があったりと、体調管理の難しさを感じることも増えてきましたね。10月20日～11月6日は「秋土用」の期間です。ちょうどこの新聞がお手元に届く頃は、まさに季節の変わり目。体調を崩しやすいこの時期、昔からの智慧である「土用」について、少しご紹介したいと思います。

「土用」と聞くと、「土用の丑の日」や夏の鰻を思い浮かべる方が多いかもしれませんが。実は土用は年に4回、春・夏・秋・冬それぞれに18日間ほどあることをご存知でしょうか？

夏土用は「丑の日」に「う」のつく食べ物を食べるとよいとされ、鰻を食べる方も多いと思います。一方、秋土用は「辰の日」に「た」

のつく食べ物や、青いものを食べるとよいと言われています。（今年の秋土用の「辰の日」は、10月21日と11月2日）

実は、秋は夏の疲れが表に出やすく、朝晩の冷えによって胃腸も弱りがちな時季です。「た」のつく



青魚を食べるのもよいということで…旬の「秋刀魚」に、「た」の付く「大根おろし」を添えていただきます！



「た」の付く食べ物といえば…大根や玉ねぎ、卵、大豆など、色々と思ひ浮かびますね。こちら九州では身近な存在で、自分たちでも育てている「高菜（たかな）」があります。高菜の混ぜご飯に「たまご」をかけて、Wで縁起担ぎを！

一期一会庵

新しい関係性、 ご縁を結び直す

「時務を識る者は俊傑に在り」という言葉があります。この言葉は『三国志』蜀書の諸葛亮伝の裴松之注に引用された『襄陽記』の中に記される言葉です。

具体的には、まだ弱小であった劉備玄徳が司馬徽（水鏡先生）に天下の情勢を尋ねたときの返答の言葉です。正確には「劉備、世事を司馬徳操に訪う。徳操曰く、『儒生俗士、豈に時務を識らんや。時務を識る者は俊傑に在り。この間、自ら伏龍・鳳雛あり』。劉備、問う、『誰となす』と。曰く、『諸葛孔明、龐士元なり』と」。

以下は意識ですが、劉備が水鏡先生に真摯に尋ねる。「今まさに私はどのようにしてこの天下に在ればいいのか、どうか教えてください。」と。水鏡先生が言う。「儒学者の私に聞かれても知識は答えられてもそれは教えることができません。もしそれ

ができるとすれば『今を知る』ものです。そのような人物こそ俊傑と呼ばれるものです。この地に俊傑は二人います。それが諸葛孔明と龐士元です。」と。

「俊傑」とは何か、これは時代の兆しを知り、今を識るもののことです。この「今を識る」とは何か。これは日々を新たに生き切る人のことです。つまりゼロベースに物事を常に刷新して洞察し続けられる人、新しい自分を常に創り続けている人ともいえます。

人間は、過去によって今を概念で操作していきます。それを思い込みといいます。過去の思い込みによって今を観ています。しかし、本当は過去からの今は、真の「今」ではありません。

今がどのような今か、今の中に存在します。時とはそもそも今のことです。道元禅師はこれを而今ともいいました。

そして今を識るには新しい自己で居続けるといふ、まるで変化と一体になっている絶対的な主体性、自然（じねん）です。

カグヤも新体制、新しい関係性をお客様と結ぶようクルー一同で精進していきたいと思っています。

（野見山広明）

編集後記



雨音にはリラックス効果があるそうです。

社内の一円対話で、「雨の日の過ごし方」をテーマに話す機会がありました。

雨というと、どちらかというとネガティブなイメージがあるかと思えます。しかし、お子さんとあえて外で遊んだり、明るい色の洋服を着たりと、その日の天気を楽しんでいるというポジティブな話

が印象に残りました。私自身も雨音を聞くとリラックスでき、仕事が捗る気がします。

後日、実際に雨の日を外歩いてみたというクルーもいて、一見過ごしにくい天気でも楽しむ視点をもち、その体験を共有することで、新たな発見につながるものだと感じました。

（川岸）

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます

